



THE Y' S MEN' S CLUB OF SENDAI HIROSEGAWA

仙台広瀬川ワイズメンズクラブ

2014年12月号ブリテン 通算第43号 2014.12.17



事務所 〒980-0822 仙台市青葉区立町9-7 仙台YMCA内

TEL: 022-222-7533 F A X 022-222-2952

Email:ckj01150@rio.odn.ne.jp 書記 佐藤 剛

HP : http://www18.ocn.ne.jp/~sendaiys/sendaiys.html

第1例会：毎月第3水曜日・第2例会：毎月第1火曜日 仙台YMCA 18:45

2014—2015年度 主題 (Theme)

国際会長	Isaac Palathinkal (インド)	"Talk less, Do more" 「言葉より行動を」
アジア会長	岡野 泰和 (大阪土佐堀)	"Start Future Now" 「未来を始めよう、今すぐに」
東日本区理事	田中博之 (東京)	「誇りと喜びを持って」
北東部 部長	大久保知宏 (宇都宮)	「一体となって一歩前に」 ～楽しく、楽しく、楽しく～
クラブ会長	門脇 秀知	「ワイズの強みは“つながり”です」 ～お互いに支え、支えられている～

2014～2015年度 クラブ役員

会 長	門脇 秀知	地域奉仕	吉田俊一 阿部 松男	ユース	佐藤 善人
副 会 長	堀越 祥浩	CS		YMCAサービス	清水川 洋
書 記	佐藤 剛	会員増強	菅野 健 布宮 圭子	ドライバー	加藤 研
会 計	高篠 伸子	EMC	及川 浩美	メネット会長	松本 京子
直前会長	門脇 秀知	国際交流	伊勢 文夫 村井 伸夫	ブリテン	本野日出子
監 査	伊勢 文夫	DBC	井上 恵子	担当職員	佐藤 健吾

今月の聖句

吉田 俊一

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

ルカによる福音書2章14節

巻頭言

「黙々と奉仕」

阿部松男

私は仕事の環境のせいで黙々と働くことが多く、人の前で話をしたり文書を書くのは苦手です。
 ワイズメンズクラブに入会して何回目かの例会プログラムに「スピーチ」という文字を見つけた時は嫌な予感がしました。
 幸いこれまでその場面に出会っていないのが安心です。
 話が苦手な分、身体を動かすことは大好きです。
 車を運転することも好きです。
 ワイズとYMCAの活動の中に身体を動かすことと車を運転することが多いことを見つけたときはうれしく思いました。
 これまで、震災被災地への講師の先生の送迎、自分の軽トラックでのアルミ缶定期回収、YMCA各施設への奉仕（行事への参加・樹木伐採・蜂の巣除去・塗装修理：写真 など）をさせていただきました。
 皆さんに喜んでいただき、「ありがとうございます」と言われた時の気持ち良さは何にも勝るものです。
 「スピーチ」「作文」は得意な方もおられるようですのでお願いし、私はこれからも黙々と奉仕したいと思います。



12月第1例会報告

在籍者	18名	出席者	10名	メイキャップ	3名	出席率	72%
メネット	名	ゲスト・ビジター	12名	ニコニコ			11000円

【11月第1例会報告】

日時 11月19日(水) 18:45
場所 仙台YMCA
出席 阿部・伊勢・加藤・門脇・佐藤健吾・佐藤善人・
高篠・堀越・松本・吉田

ゲスト

ボランティアリーダー：8名
小田祥子・根本拓・千葉悠加・佐井溪生・
石田彩由美・蔵野一樹・吉田湧・石森千裕さん
国際ホテル専門学校：2名
斎藤諒太・小松邦俊さん
職員：2名 加藤雄一・黒田敦さん

例会は、たくさんの若いゲストをお迎えし、これまでにない画期的な企画で行われた

ゲストスピーチはお二人にいただいた。

第45回全国リーダー研修会(11/1~3)の報告

小田祥子リーダー…「環境について」

根元 拓リーダー…「福祉について」

報告を聞いて、参加者全員で「ボランティアのありかたを見つめ直す」と題し、仙台YMCAとして『気付く～考え～出来る事』について意見交換を行った。

【4グループに分かれグループセッションを行い、それぞれグループ代表がまとめの発表を行い意見交換した。】

詳細は3Pに掲載。

ニコニコ：11,000円

例会終了後、懇親会を開催した。

参加14名場所：「集合郎」一番町

【12月第2例会報告】

日時 12月2日(火) 18:45
場所 仙台YMCA
出席 阿部・伊勢・及川・加藤・門脇・菅野・佐藤健吾・
佐藤善人・佐藤剛・高篠・堀越・松本・吉田

<11月報告>

- ① 11/22(土)23日(日) 2014被災地少年サッカー交流&ユースリーダーズアクト開催
- ② 11/29(土)第18回東日本区「メネットの集い 第2回被災地を訪ねて」
訪問先 塩釜市 桂島
参加：阿部 伊勢 加藤(真) 門脇 佐藤(善)
松本 村井

<連絡事項>

- ① 12/5日(金)震災支援仙台3クラブ実行委員会
- ② 12/7(日) 仙台YMCA職員クリスマス
- ③ 12/12(金) 冬季ユースリーダー委嘱状授与式
- ④ 12/13(土)もりおか・岩国南クラブ DBC締結式
- ⑤ 12/14(日)ボランティアワーク
山元町 岩佐いちご園 ハウス内での軽作業
- ⑥ 12/23(祝)国際・地域協力街頭募金

<協議事項>

- ① 12月第1例会クリスマス例会について
17日(水) ホテル白萩 18:45からオークションを行う
- ② 12/19日(金)第42回仙台YMCAクリスマス
- ③ 井上氏の「ポーランド旅行」報告について
クリスマス例会に合わせて行う
- ④ 次期会長について 会長を中心に次回までに検討

2014 第2回被災地少年サッカー交流&

ユースリーダーズアクト開催

11月22日・23日、東北学院大学泉キャンパスに、ボランティアリーダー、招待6チーム・YMCAサッカークラブ2チームの選手・指導者73名と東日本区役員・北東部役員・3クラブのワイズメン66名、計139名が参加して開催された。

22日は各チームの指導者が「大津波～子どもたちの生活」と題して講話され、その後全員参加のワークショップ「自分たちで考える防災・力」が行われた。

23日はサッカー大会が開催され、少年たちがのびのびとサッカーを楽しんだ。(写真：右)



【11月第1例会～ボランティアのあり方を見つめ直す～ 報告】

佐藤健吾

11月19日（水）、仙台YMCA立町会館会議室において、仙台広瀬川ワイズメンズクラブ11月第1例会を行いました。

例会では、東北大学2年の根本拓さん、東北福祉大学2年の小田祥子さんの第45回全国リーダー研修会（11/1～3）の報告を受けて、「ボランティアのありかたを見つめ直す、“気づき～考え～行動する”」と題し、各々が一人のボランティアとして、仙台YMCAを通して自分たちがすべきことを考え行動する研修会を行いました。

初めに、小田祥子リーダーからは環境について、根本拓リーダーからは福祉について、それぞれ全国リーダー研修会で話し合われた内容の報告がありました。

その後4つのグループ（写真：下）に分かれ、自分たちの周りにある問題や課題に気づき、力をあわせてともにできることを考えることができました。最後に全体の場での発表を行い、各グループで出されたアイデアを共有し研修会を終えました。

当日の参加者は、仙台広瀬川ワイズから10名、ユースボランティアリーダー8名、仙台YMCA国際ホテル専門学校学生2名、仙台YMCA職員2名、合計22名参加がございました。こういった試みは初めてでしたが、今後も継続してユースや職員の皆さんと協力して活動ができればと思います。



2014年度冬季ユースリーダー委嘱状授与式

12月12日に授与式が行われ、健康教育事業運営委員長の加藤メンが委嘱状を授与し、激励されました。新リーダーは26名です。



編集後記

H, H

急な選挙もあるもんだと思っていたらあっという間にクリスマスです。
光のページェントも予算不足でいつもより遅い点灯。しかも灯りが足りなく見える。
景気浮揚の実感がしない年末と感ずるのはわたしだけであればいいのですが。
来年は最下位楽天・ギリギリ残留ベガルタが飛躍し、皆様にとっても良い年でありますよう。

12月17日の仙台メネット会でスピーチされる井上恵子さんから寄せられたものです

戦争はなぜ起きたのか考えました

井上恵子

なぜ1市民の私(井上)がそんなことに興味をもつのかと思われそうですからまずそのことから。今をさかのぼること40数年私は地元の新聞社に、ジャーナリストになろうという大望をもって就職しました。ところがその時代は女性とはお茶くみガールとしか扱ってくれませんが、それでわずか2年で上司に逆らって退職をよぎなくされました。が、それ以来いつも社会に何か疑問をもって暮らしてきました。この年になって気が付いたことは、あまりにも学校で習うことが少ない、と10年前から地元で世界史の私塾に通ってききましたが、どうも世界の戦争はなぜユダヤ人が絡むのかについて、大いに調べてみる価値がありそうに思いましたので、今年は南アフリカ、ドイツ、ポーランド、ロシアなどに行ってきました。

昔、たった一つのガラス玉と、手のひらいっぱいダイヤの原石が交換された。とアフリカのガイドさんに教えてもらいました。ベネチアが大いに繁栄していたころの話です。当時のベネチアはベニスの商人と言われてユダヤ人の町のようなものでした。昔はスペインやイギリスが大いに海外に植民地を増やしていった頃、ユダヤ人は特殊な事情により植民地より、貿易、金融に手を広げていったのです。逆に大国の貴族や国家にお金を貸し付けたり、奴隷貿易によって大きな利益を得ることとなった。その頃神聖ローマ帝国が小国に分かれていく過程でユダヤ人が大きく関係していた。次第に国が小さくなっていくありさまをドイツ人たちは原因をユダヤの負うところが大きいと感じていた。1600年以後の世界の戦争は一方に戦費を貸し付け、反対には大量の武器を供給し、自在に戦争を操っていったのです。300年ほど続き、そこにヒットラーが時代の落とし子として突然頭角を現してきました。ユダヤ資本を恐れ、これを抹殺する以外に道はない。と軍を掌握し、国民を第3帝国の設立だと言ってあのような戦争に巻き込んでいったのでした。私はなぜヒットラーがあのような残酷な仕打ちをしたのか、それには深いわけがあると思い、いろんな現場に行ってみました。もちろん凄惨な場面は数多く残されていましたので見てきましたが、これはドイツだけでなく、ユダヤ人は我々の日本の戦争にも大きな影響をもたらした。

学校で教えられなかったことを、私は今ジャーナリストのなりそこないとして語っていきたいと思い、このような資料を作り、語り部として生きていきたいと思えます。